

平成 29 年度
大学連携講座報告書

平成 30 年 3 月

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

もくじ

平成29年度 大学連携講座開催業務の概要

1

実績報告							(応募件数:5件 採択件数:3件)
No	大学	代表者	講座	回数	連携大学	地域	頁
1	常葉大学	細川 壮平	少子化・グローバル化による社会の変容と 地域間ネットワーク・デザイン	3	静岡文化芸術大学 静岡産業大学 エラスムス大学	静岡県 掛川市 静岡市	3
2	静岡文化芸術 大学	河村 洋子	地域防災・減災と大学	3	浜松医科大学	浜松市	10
3	静岡理工科大 学	脇坂 圭一	静岡建築茶会2017 ～Shizuoka Architectural Tea Break 2017	2	静岡文化芸術大学 常葉大学	浜松市 富士市	22

※報告の最後にアンケート調査の集計を掲載していますが、静岡文化芸術大学は独自のアンケート調査による集計を掲載しています。静岡理工科大学は都合により集計を実施できなかったため、掲載していません。

本報告書は、静岡県から「平成29年度大学間等連携推進事業費補助金」を受けて公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施した「平成29年度大学連携講座開催事業」の概要を取りまとめたものです。添付資料のうち、頁数の多いものは冊子に含めず、当コンソーシアムで保管しております。なお、「大学連携講座受託者募集要領」等は、当コンソーシアムのウェブサイトにてご覧いただけます。



URL:<http://www.fujinokuni-consortium.or.jp/>

平成 29 年度 大学連携講座開催業務の概要

1 目的

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム構成校の教員等による学術・研究成果の積極的な地域還元を図るとともに、異なる大学等の研究者や学生とのコミュニケーション、大学等と地域との協働の場の創生の機会の創出を目的として、「大学連携講座開催業務」を業務委託契約により開催する。

2 概要等

(1) 事業内容

項目	内容
講座の概要	<p>ア テーマ 静岡県の地域資源を活かし、地域の活性化や地域振興、地域の魅力発信につながるものをテーマとする。</p> <p>イ 参加対象・人数 ・一般県民（具体的な対象者がある場合は、記入すること。） ・講座 1 回あたり 50 人～100 人程度を目安とする。</p> <p>ウ 開催期限 平成 30 年 1 月 31 日まで</p>
開催の条件	<p>ア コンソーシアム構成校 2 校以上の連携開催とすること。</p> <p>イ 学生が運営スタッフとして参加するなど、学生の力を取り入れると共に、他校の研究者や学生とのコミュニケーションの機会を創出すること。</p> <p>ウ 開催回数・日時・会場については、採択後、コンソーシアムと協議の上決定するものとすること。</p> <p>エ 広報等にあたっては、主催者または共催者として、受託大学名等の他に「静岡県、公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を表記すること。</p> <p>オ 講座開催時は、コンソーシアムのパンフレットやイベントちらし等の配布に協力すること。</p> <p>カ 各回ごと、指定のアンケートを配布回収し、集計して提出すること。</p>
委託費	<p>委託費は開催に要する経費（下記ア～ク参照）の範囲内で、講座 1 回開催につき、33 万円（税込）以内とする。</p> <p>ア 旅費 イ 講師謝金 ウ 消耗品費 エ 印刷製本費 オ 通信運搬費 カ 役務費（作業料、手数料） キ 会場使用料 ク 賃金（学生アルバイト等）</p>

(2) スケジュール

- ・5 月 19 日～6 月 12 日 公募
- ・6 月以降：審査、採択の決定

【参加者へのアンケート用紙】

様式第6号

ふじのくに地域・大学コンソーシアム 大学連携講座アンケート

今後の参考とするため、以下のアンケートにご協力ください。 (月 日開催分)

1 今回の講座はどのように知りましたか？(該当するもの全てに○を付けてください)

- ア 広報ちらし
- イ フェイスブック、ツイッターなどSNSで知った
- ウ イ以外のインターネット情報（サイト名）
- エ 友人・知人から聞いた
- オ 大学から聞いた（授業、通知、掲示板等）
- カ その他（）

2 今回の講座の難易度、理解度、満足度は？(それぞれ1つずつ○を付けてください)

(1) 難易度

- ア 易しかった
- イ やや易しかった
- ウ やや難しかった
- エ 難しかった

(2) 理解度

- ア 理解できた
- イ やや理解できた
- ウ あまり理解できなかった
- エ 理解できなかった

(3) 満足度

- ア 満足できた
- イ やや満足できた
- ウ あまり満足できなかった
- エ 満足できなかった

3 大学連携講座としての感想

今回の講座は、複数の大学等が連携して開催しています。大学連携の効果の有無など感想をお願いします。

4 その他、意見・感想・提案など自由にご記入下さい。(裏面も使用できます)

以下の記入は任意です（統計的に処理します）

学校名や所属・職業等	居住地	性別	年代
	市町村区	男 女	-10, 10, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 80-

ご協力ありがとうございました。

1. 少子化・グローバル化による社会の変容と 地域間ネットワークデザイン

大学連携講座

「少子化・グローバル化による社会の変容と地域間ネットワーク・デザイン」

趣旨

少子化、グローバル化によって地方は人口減少等、様々な地域課題を抱えている。しかしながら、地域の団体が広域的連携することで効率的に課題を解決することが可能である。そのためには、地域における多様な団体がネットワークを構築し、協力できる体制を考えることが必要である。

本講座では、「少子化・グローバル化による社会の変容と地域間ネットワーク・デザイン」と題して、地域におけるネットワーク構築のあり方について考えた。

常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センターは、大学連携講座の事業を通じて地域との連携を図った。このような取り組みを通じて、大学が地域における「場」として、大学と地域との連携に寄与する土台を形成することができた。

- 1 大学連携講座の名称：第 1 回 地域における安全とネットワーク
- 2 主担当大学及び所属：常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センター
- 3 連携先大学及び所属：なし
- 4 開催日時： 7月8日（土）14時～17時
- 5 開催場所：常葉大学水落校舎
- 6 参加者数：45人（一般 15人、大学生 30人）
- 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

少子高齢化に伴い、安全で安心なまちづくりが必要とされている。地域の絆が薄れているため、地域の各団体がネットワークを形成することが必要である。

上川 陽子衆議院議員による基調講演「最近の犯罪と罰則化」では、最近の刑法の改正における性犯罪の厳罰化、再犯の問題が取り上げられ、地域の協力体制の下、再犯を防ぐことの重要性が強調された。川村法彦氏（静岡県くらし・環境部県民生活局くらし交通安全課くらし安全班主幹）の「犯罪の起きにくい社会づくり」では、犯罪に関するデータをもとに、地域における高齢者や子供の見守りの必要性が述べられた。木村佐枝子准教授（健康プロデュース学部心身マネジメント学科）は、「地域連携による大学生の防犯ボランティア活動」と題し、常葉大学の学生による実践を通じた地域貢献の事例を紹介した。静岡市企画課長松浦高之氏から、防犯カメラに対する静岡市の助成等、防犯をめぐる最新の施策について紹介があり、細川壯平教授（法学部）は刑法の視点から防犯活動にコメントをした。

浜松キャンパスの学生から実際に実行している防犯活動の紹介がなされ、地域の方からは、地域で学生に活動してもらうためにはどうしたらよいか等、質問が出された。学生が地域における安全をいかに守るべきか、大学としてどのように関わるかについて考える機会になり、大学と地域とのネットワークの土台が形成された。特に、被害者のみならず、再犯防止にむけた地域の支援や子供が犯罪に巻き込まれないよう見守り、子供自身による注意を地域で行う必要がある。大学生が犯罪防止に向けた地道な取り組みに参加することが地域の方から期待されている。大学生の団体と地域とをつなぐ手段が少ないため、今後は、地域のニーズを受けとめる窓口が欲しいとの意見が多くみられた。

- ・基調講演「最近の犯罪と厳罰化」上川 陽子（衆議院議員）
- ・講演「犯罪の起きにくい社会づくり」川村 法彦（静岡県くらし・環境部県民生活局 くらし交通安全くらし安全班）
- ・講演「地域における安全とネットワーク」木村佐枝子（常葉大学准教授）

コメントーター

松浦 高之（静岡市企画課課長）
細川 壮平（常葉大学法学部教授）

- 1 大学連携講座の名称：第 2 回 地域における演劇とネットワークづくり
- 2 主担当大学及び所属：常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センター
- 3 連携先大学及び所属：静岡産業大学
- 4 開催日時： 7月 22 日（土）14 時～17 時
- 5 開催場所： もくせい会館
- 6 参加者数： 45 人（一般 30 人、大学生 15 人）
- 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

「地域における演劇とネットワークづくり」と題して長谷川孝治氏（青森県立美術館舞台芸術総監督・劇作家・演出家）が野外劇「津軽」を題材にしながら、地域における劇団のあり方について基調講演を行った。成島洋子氏（SPAC 芸術局長）、小泉祐一郎氏（静岡産業大学情報学部教授）、安武伸朗氏（常葉大学造形学部教授）、中島一彦氏（静岡市観光交流文化局長）がシンポジウムを行い、演劇によって作り上げる地域の魅力や継続する方法について話し合った。

7月 21 日（金曜日）の関連ワークショップでは、学生たちが演劇による地域おこしや身体を使ったコミュニケーションのとり方を学んだ。

7月 23 日（日曜日）、関連シンポジウムでは、南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンターで栗下浩信氏（自治会連合会会長）等から、井川における人口減少、移住、地域における伝統芸能の承継、音楽祭を活用した地域づくりが紹介され、長谷川幸治氏が青森県の過疎地における演劇活動や読み聞かせ活動の広がりについて紹介した。

参加学生からは今後も地域との話し合いを継続し、アートを活かしたまちづくりに関わっていきたいとの意見が聞かれた。

- ・基調講演 「地域における演劇とネットワークづくり」長谷川孝治（劇作家・演出家）
- ・シンポジウム「地域における演劇とネットワーク」
小泉 祐一郎（静岡産業大学教授）
中島 一彦（静岡市企画局政策推進統括監）
成島 洋子（SPAC 芸術局長）
安武 伸朗（常葉大学造形学部教授）

- 1 大学連携講座の名称：第3回 地域における文化の継承とネットワーク
- 2 主担当大学及び所属：常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センター
- 3 連携先大学及び所属：静岡文化芸術大学
- 4 開催日時：11月19日（日）14時～17時
- 5 開催場所：掛川市大日本報徳社
- 6 参加者数：30人（一般 20人、大学生 10人）
- 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

「創造的産業と税制優遇 007 から藤田そして U2 へ」と題してシグリッド・ヘメルス教授（エラスムス大学法学部）が基調講演を行った。天内大樹講師（静岡文化芸術大学デザイン学部）は、「浜松・寺島町リノベーション学生ワークショップ」の実践報告を行った。土屋和男教授（造形学部）、杉山智之非常勤講師（造形学部）、造形学部環境デザインコース3年生が「掛川・松ヶ岡の活用・継承」と題し、実践報告を行った。ディスカッション「見えがくれする掛川 建築を使い続ける・街を持続させる」では、地域において文化を継承・持続し、まちづくりに活かしていくためのネットワークづくり、地域で市民・行政・大学が連携して歴史的建造物や地域資源を維持・活用する取り組みを通じて歴史的建造物の価値について考えた。参加した学生からは「掛川市全体が文化財に力を入れている」、「市民が主導して歴史的建造物を保全している」、「他大学の取り組みを知ることができた」といった感想が聞かれた。なお、当日は茶エンナーレが開催されていたため、来場できなかった関係者が多かった。

・基調講演 「文化政策と税のインセンティブ」

Sigrid Hemels（エラスムス大学教授）

・実践報告「掛川市・松ヶ岡の活用・継承」

土屋 和男（常葉大学 造形学部 教授）

杉山 智之（常葉大学 造形学部非常勤講師）

常葉大学造形学部環境デザインコース3年生・掛川市教育委員会

・実践報告「浜松コンヴァージョン建築マップ」

天内 大樹（静岡文化芸術大学 デザイン学部 講師）

・ディスカッション「見えがくれする掛川 建築を使い続ける・街を持続させる」

天内 大樹・杉山 智之・「松ヶ岡を愛する会」・掛川市・掛川市教育委員会

ファシリテーター 土屋 和男

**少子化・グローバル化による社会の変容と地域間ネットワーク・デザイン
アンケート集計結果**

	第1回	第2回	第3回	合計
受講者数	50	50	35	135
回答者数	22	17	9	48

1 今回の講座はどのように知りましたか(複数回答可)

選択肢	第1回	第2回	第3回	合計
広報ちらし・自治体等の広報誌	8	2	1	11
SNS(フェイスブック、ツイッターなど)	0	0	0	0
SNS以外のインターネット情報	0	0	0	0
友人・知人から聞いた	4	10	3	17
その他	11	3	5	19
無回答	0	2	0	2
合計	22	17	9	48

【回答者の属性】

《居住地》	第1回	第2回	第3回	合計
県内	12	12	5	29
県外	0	0	0	0
無回答	10	5	4	19
合計	22	17	9	48

《性別》

男	5	7	5	17
女	8	5	1	14
無回答	9	5	3	17
合計	22	17	9	48

《年代》

10代以下	0	0	0	0
10代	1	2	0	3
20代	6	6	2	14
30代	1	1	0	2
40代	0	2	0	2
50代	4	0	2	6
60代	0	0	2	2
70代	1	0	0	1
80代	0	0	0	0
無回答	9	6	3	18
合計	22	17	9	48

2-1 講座の難易度は?

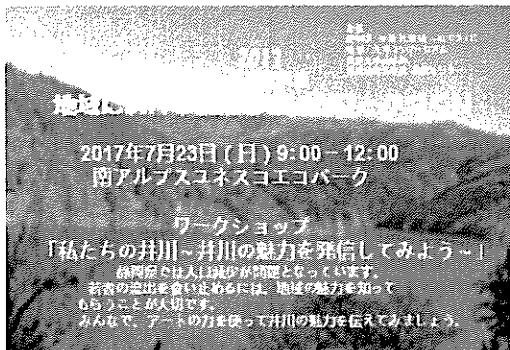
選択肢	第1回	第2回	第3回	
易しかった	5	5	1	11
やや易しかった	5	2	0	7
やや難しかった	9	9	6	24
難しかった	2	1	0	3
無回答	1	0	2	3
合計	22	17	9	48

2-2 講座の理解度は?

選択肢	第1回	第2回	第3回	
理解できた	9	5	3	17
やや理解できた	11	11	5	27
あまり理解できなかった	1	1	0	2
理解できなかった	0	0	0	0
無回答	1	0	1	2
合計	22	17	9	48

2-3 講座の満足度は?

選択肢	第1回	第2回	第3回	
満足できた	10	5	7	22
やや満足できた	10	11	1	22
あまり満足できなかった	0	1	0	1
満足できなかった	1	0	0	1
無回答	1	0	1	2
合計	22	17	9	48



自己紹介・グループ作り
ミッション1 私たちにとっての井川～魅力を考える～
 井川の魅力について話し合い、魅力を表現する手法について決めましょう。
ミッション2 私たちの井川～井川の魅力を発信してみよう～
 井川の良いところを絵もしくはコメントで自由に描いてみましょう。
 写真、押し花等はバンドで貼り付けます。
 動画のストーリーを組み立ててみましょう。
ミッション3 完成・未完成作品を各自発表しましょう。
 請け合った後、発信してみましょう。

地域における演劇とネットワークづくり 大学連携講座
2017年7月23日(日) 13:00-15:00
田アルプスユネスコエコパーク シンポジウム
「地域におけるアート」
 地域の魅力を高めるための「アート」の活用。
 わかりやすく発信するための「アート」のあり方を考えます。

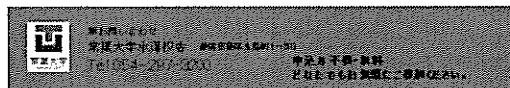
開催詳細

「最近の井川のこと～音楽祭など」「地域でのアートの持続可能性～青森での体験から」
 梶下 浩信氏
 長谷川孝治氏
 「井川の魅力～移住」
 逸藤 基氏



「地域での演劇」
 桥山 央氏
 「井川の魅力を発信する方法」
 加藤 宏一氏

1976年、地元の農業者達が、ひよし作付実験をはじめてから現在まで、その栽培技術を継承して受け継がれている。
 ロードサイドで販売される農産物は、主に野菜類。
 例：野菜の栽培技術の向上により、良質な野菜が育つ傾向など、地域で注目される事例が見られる。



2. 地域防災・減災と大学

講座の概要(1)

1 大学連携講座の名称：第1回 「若い力による防災・減災」

2 主担当大学及び所属：静岡文化芸術大学

3 連携先大学及び所属：浜松医科大学

4 開催日時：11月11日（土）14時～16時

5 開催場所：静岡文化芸術大学講堂

6 参加者数：40人（一般10人、大学生30人）

7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

公開講座のシリーズにおける初回は、災害発生時の学生の力の重要性を改めて考えることで、大学や地域コミュニティの果たすべき役割と分担について再考、整理するような機会となることを目的とした。

2016年熊本大地震を経験したのちに活動している熊本大学のグループの代表として、「D-Seven」から澁谷明佳（しぶやはるか）さんと「Kumarism」から古賀愛深（こがなるみ）さん、そして熊本県立大学で学生ボランティアとしてダイナミックに活動した岩崎貴夏矢（いわさきたかや）さんの3名を迎える、学生の立場で経験したことを紹介していただいた。

また、地元から本学学生防災・減災サークル「さいのこ」代表菊池日向さんと浜松医科大学の防災サークル「ルーチェ」代表菅沼寛明さんからも、現在どのような活動をしていて、課題として感じていることを報告した。その後、パネルディスカッション形式で、甚大災害が発生した際に、「学生・若者としてどのような役割を担うべきか」「どうやって活動をしていくのか」「気をつけること」などの観点から、会場からの質問を交え、意見交換をする時間を設けた。

熊本県立大学の岩崎さんは学生として避難所運営に関わり始めた経緯として、自らがボランティアをするとは考えたことはなかったと淡々と語った。しかし、学生という立場で強みを活かし学生たちが実際に現場でどのように動いた様子が分かり、熊本大学の学生たちとも力を合わせ、ボランティアセンターの運営を担うことになった。この「熊本方式」には会場からも大きな関心が寄せられた。

熊本大学の2サークルの中で、「D-Seven」代表の澁谷さんは防災・減災のことを考えたこともなかったが、自らが南海トラフ地震発生の際の津波被害想定地域である宮崎県出身ということもあり、被災経験から熱い思いをもって地域コミュニティの復旧・復興支援の活動を始め取り組むことになった経緯と現在の様子を生き活きと語った。一方、「Kumarism」は地震の影響で観光客が減少している天草地域のツーリズムの復興というユニークな取り組みを展開している。「防災・減災」「復興支援」ということを表面的には感じさせないものであるが、学生の減災への関わり方として、新しい視点を提供してくれるものであった。

地元の「さいのこ」の活動は、代表者の菊池さんから防災・減災というハードなイメージが伴う分野に多くの人々に关心を持ってもらうための工夫として、食やゲームなどを介して楽しみを中心とした取り組みの紹介があった。浜松医科大学の「Luce」について、代表者の菅沼さんから医師や看護師という医療専門職を目指す学生らしい災害医療を学ぶという切り口で防災・減災に関する活動を展開していることが紹介された。

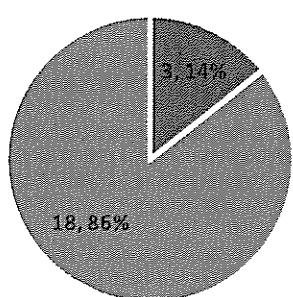
パネルディスカッションでは、熊本からの学生たちに具体的な動きについて内容を深めた。先述したように、特に岩崎さんのボランティアセンターの「熊本方式」運営に関して聴衆から多くに質問が投げられた。

また、学生の強みとして、情報通信機器のリテラシーの高さや存在そのものがあがり、学生同士の活動における悩みや課題として、「防災・減災」活動に関わる学生のネットワークの拡大が共有項目として見えてきた。さらに、学生にとって、学生として関わることの意義、一方で苦労などもテーマとして上がり、ディスカッションで深めることができた。

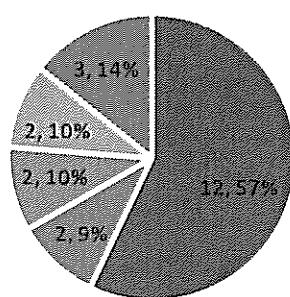
聴衆が少なく、アンケートへの回答者も少なかったが有用性の認識と満足度双方高かった。しかし、内容が良かっただけに、聴衆からはより多くの人に聴いてもらるべき、というようなご意見をいただいた。

以下、簡単な、アンケート結果のまとめを示した。

回答者内訳 1



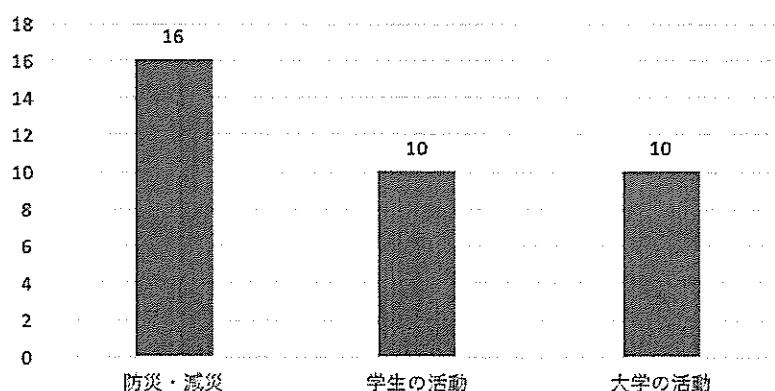
回答者内訳 2



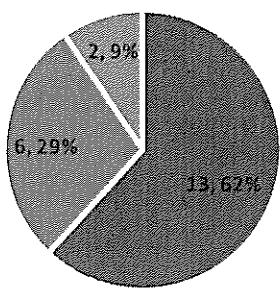
■ 学内 ■ 学外

■ 大学生 ■ その他学生 ■ 近隣住民 ■ 行政職員 ■ その他

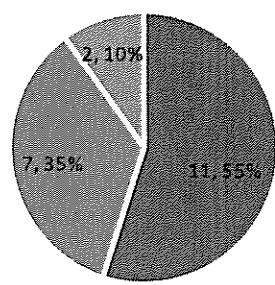
参加動機（複数回答可）



内容は有用か



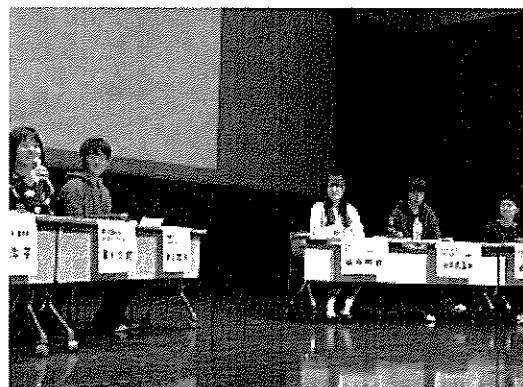
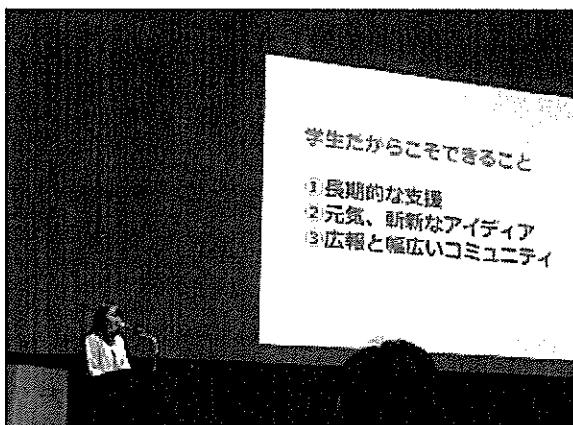
内容に満足したか



・とても有用　・まあ有用　・どちらとも言えない　・とても満足　・まあ満足　・どちらとも言えない

<感想など>

- VCについて実際に話を聞いてよかったです。他学部との取り組み、考え、アイデアが新鮮だった。
- 「災害対策」一つについても多角的なアプローチがあり、様々な活動があるのだということを実感しました。自分たちの活動の特殊性を改めて感じました。
- その他学生との連携も防災対策として考えたいです。
- たのもしい学生がたくさんいる。可能性に満ちている（災害時には）。学生の力が頼りになることがよくわかった。
- 医学部生の活動のみを知っていたので、他学部の取り組みも知ることができてとても新鮮でした！もっと知りたいと思いました。
- 学生の活動状況がわかった。貴重な発表を多くの人に聞いて欲しいと思いました。どこも継続の難しさがあること。課題の解決（対応）策につながるといいですね。いい内容なので、もっとアピールできるとよかったです。他の組織を巻き込むなど。
- 実際に被災したかたの体験やボランティアセンターの様子を知ることができたので、とてもよかったです。
- 熊本で実際に活動されている学生の方々とお話をする機会が得られてよかったです。
- 熊本で実際に活動している学生の活動、パワーを感じました。素直に楽しかったです。
- 現地ボランティアや活動をしているかたの興味深い話を聞くことができました。
- 興味をもてたこと。私もやってみたいと思った。
- 9月など防災関連イベントとタイアップしてやった方が良い。学生がやっていることをもっと世間にアピールした方が良い（市民団体などとタイアップ）。もっと多くの人に聞いてもらった方が良い。



※講演内容の要旨（A4で2~5枚）、広報チラシ、当日プログラム等の配布資料、講座写真データ、詳細資料は、別に添付すること。

講座の概要(2)

- 1 大学連携講座の名称：第2回 「震災発生時における大学のレジリエンス」
- 2 主担当大学及び所属：静岡文化芸術大学
- 3 連携先大学及び所属：浜松医科大学、静岡県立大学
- 4 開催日時：12月15日（金）10時～12時
- 5 開催場所：静岡文化芸術大学 中講義室281
- 6 参加者数：42人（一般36人、大学生6人）

7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

第2回は、甚大災害が発生した際に大学としていかに対応するかに焦点を当て内容を構成した。想定したが準備が不十分だった、想定の範囲外であった、などの場面の方は必ず起こり得る。「折れる」ことなく回復していく力「レジリエンス」が必要となるが、甚大災害発生時に必要なレジリエンスはどのように高めておく、あるいは發揮することができるのか。大学の組織としてのレジリエンスと今からすること、できることを考える機会となることを意図して以下のような発表者を招いて、活動内容等をご紹介いただき、パネルディスカッションを行った。

- 熊本地震の現場の様子について（熊本県立大学・熊本大学ヒアリングのポイントをご報告）静岡文化芸術大学 財務室 佐々木哲也氏
- 静岡県立大学の防災対策の現状について 静岡県立大学 経営情報学部教授 湯瀬裕昭氏
- 浜松医科大学の防災対策の現状について 浜松医科大学 施設課長 松井宏文氏
- SUACの防災対策の現状について 静岡文化芸術大学 デザイン学部准教授 中野民雄氏

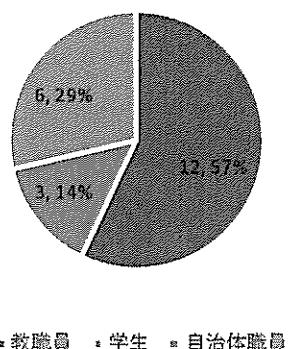
パネルディスカッションは本学文化政策学部の田中啓教授のコーディネートの下で進めた。

各大学のそれぞれに環境や持ち得る資源が異なる中で、どのように考え、取り組んでいるかという具体的な取り組みの状況が共有された。相互に有用な情報交換の場となった。

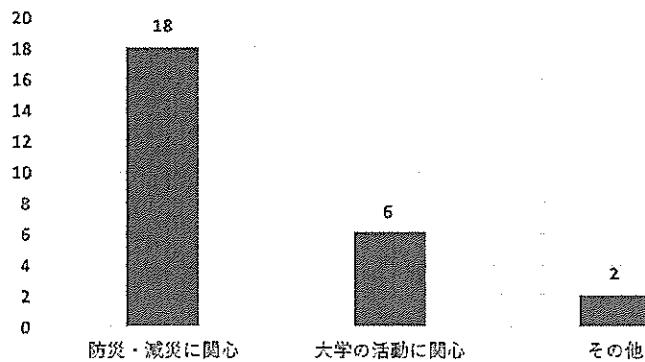
パネルディスカッションでは、大学の地域貢献機能について深めることとなり、教育や研究という役割とのバランス、学生を守る立場など関連する観点から論点を深めることができた。

以下、参加者アンケート（一部のみ回答、N=21）の簡単な結果を示した。なお、行政職員も多くご参加いただき、大学が地域の中で果たす役割に対する期待の声もアンケート内の感想の中で見られた。

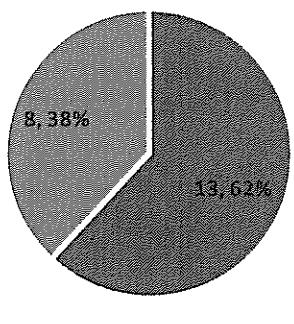
回答者内訳 1



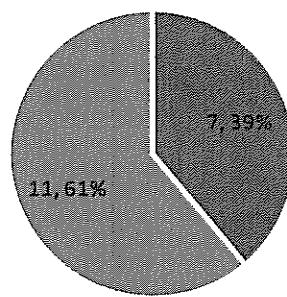
参加動機（複数回答可）



内容は有用か



内容に満足したか



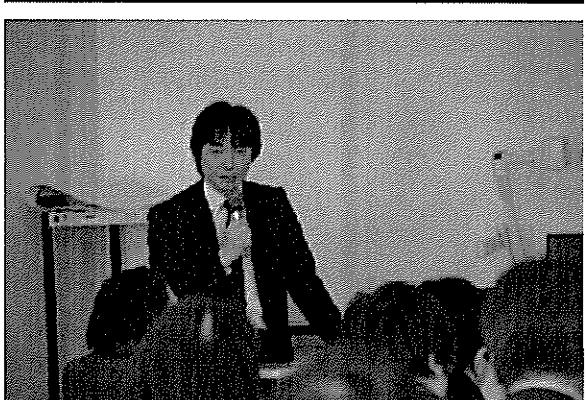
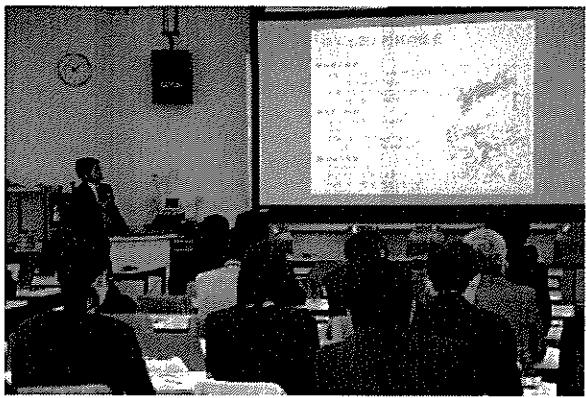
■ とても有用 ■ まあ有用

■ とても満足 ■ まあ満足

<感想・ご意見など>

- それぞれの大学の取り組みなどを知ることができてよかったです。パネルディスカッションでいろいろな話が聞けて、とても有意義だった。
- デザインの分野と医療分野という普通の防災対策講座にはないお話を聞けてとてもよかったです。
- 一人一人のコミュニケーションの重要性を再確認できた。
- 各大学の防災の取り組み、考え方を学ぶことができた。
- 大学ならではの課題やそれに対する工夫等を知ることができ、面白かった。自治体でまかないきれない部分をどう大学等と機関と連携して協力をお願いしていくかが課題であると感じた。
- 大学の防災への取り組み状況について具体的に知ることができたこと。大学が地域社会に対して、貢献していくことについて、ウェイトが置かれていることがよくわかりました。
- 文芸大の具体的な取り組みが県大や浜医と比べると少ないと感じた。
- 文芸大の非常設備の整備状況を改めて認識することができたため。防災に対して意識が上がったと感じた。
- 県内の他大学の取り組みや意思など、いつも気になっていても知ることができなかつたことを深く学ぶことができました。本学にも生かしていくことができることは積極的に取り入れて欲しいと感じました。もちろん、学生中心となって活動していきたいです。
- 第1部は時間が限られているためか、講義者の話しが早口で聞き取りにくかったです。

- ても有意義な講座と思われるでの、もう少し余裕を持って時間配分して欲しかった。
- 防災については、全教職員、学生に周知、理解が必要なため、全体が受講できる体制側の考えた方が良いと思う。
- 近辺大学とのつながりを感じることができた。



講座の概要(3)

1 大学連携講座の名称：

第3回 「知っておこう、やってみよう！避難所運営のイロハ」

2 主担当大学及び所属：静岡文化芸術大学

3 連携先大学及び所属：浜松医科大学

4 開催日時：1月12日（金）9時～12時

5 開催場所：静岡文化芸術大学 自由創造工房

6 参加者数：59人（一般47人、大学生12人）

7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

第3回は、現実的、実践的な知識とスキルを大学を含む地域コミュニティのメンバーと共に学ぶことを目的として内容を構成した。具体的には、期間の長短はあるであろうが、避難所として施設を開いたり、運営をする側になる可能性のある大学と地域コミュニティメンバーを対象に、避難所の開設と運営に関する注意点について知り、実際に経験してみるHUGゲームを利用したワークショップを行った。

以下のようなスケジュールで進行した。

<第一部>

情報提供：「避難所になるかもしれない大学」

静岡文化芸術大学 財務室 佐々木哲也氏

講演：「知っておきたい避難所設営と運営のイロハ」

講師：浜松医科大学健康社会医学講座 尾島俊之教授

<第二部>やってみよう！

講演：「HUG」とは？

講師：浜松医科大学健康社会医学講座 岡田栄作助教

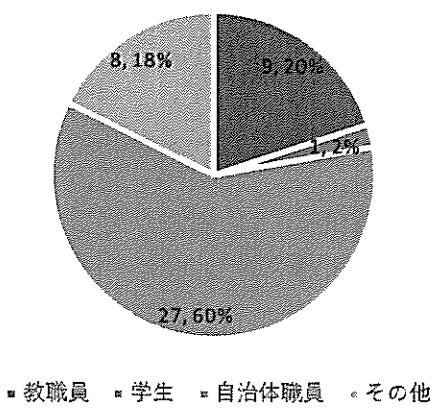
（ウォームアップ by さいのこメンバー）

HUGゲームワークショップ（実施、振り返りなどを含め）

参加者には浜松市を中心とした行政職員が多かった。近隣住民の参加もあり、学生も加わり多様な構成でゲームに取り組むことができた。参加者の有用性の認識と満足度は高かったと言える。今後もこのような場の設定を求める要望が多く寄せられ、継続的な取り組みの必要性を実感した。

以下、参加者アンケート集計結果を示す。

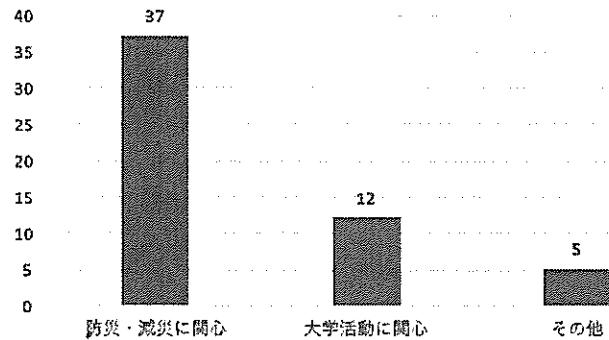
回答者内訳 1



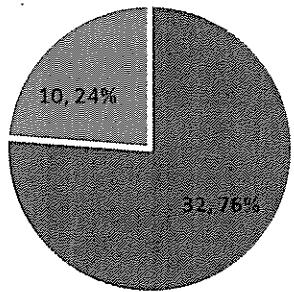
■ 教職員 ■ 学生 ■ 自治体職員 ■ その他

内容は有用か

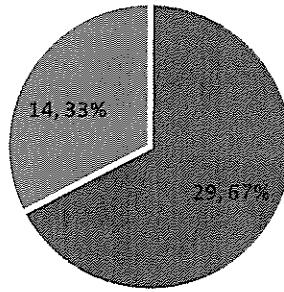
参加動機（複数回答可）



内容に満足したか



■ とても有用 ■ まあ有用



■ とても満足 ■ まあ満足

<ご意見・感想など>

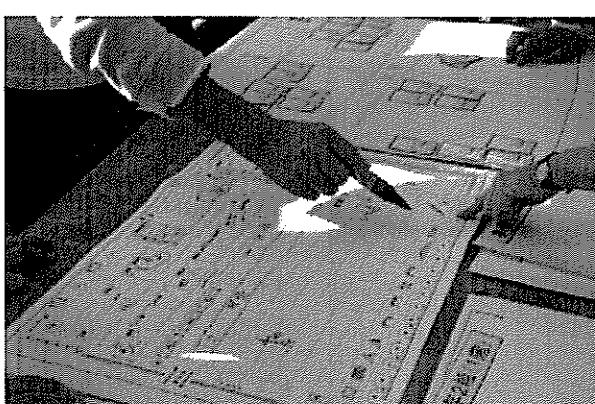
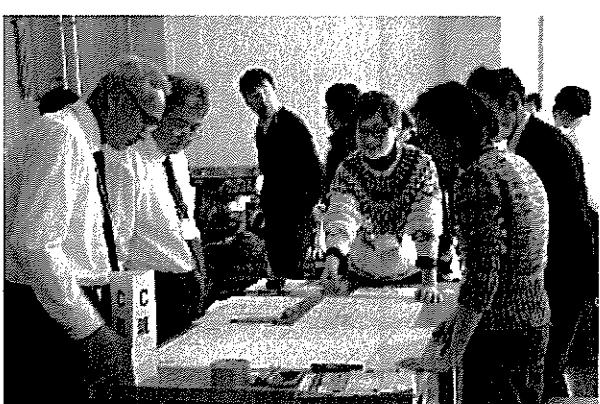
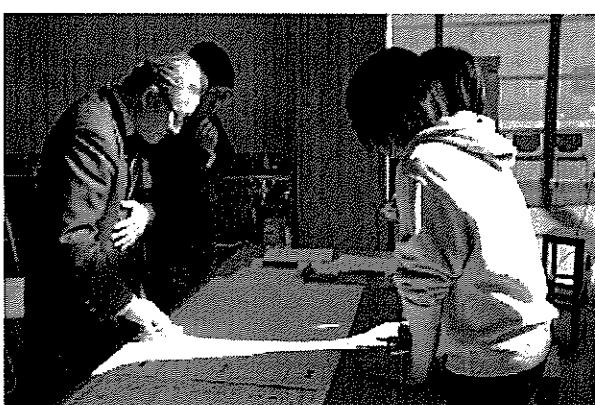
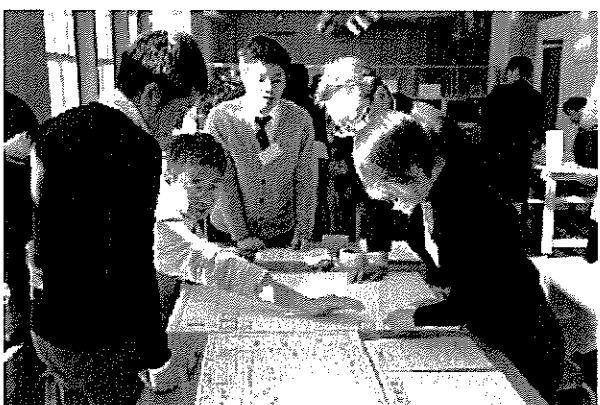
- HUGをやってみて自分で用意しておいたほうがいい防災用品が実感を持ってわかつた。トイレが一番心配。
- HUGをやれる機会が案外ない。
- HUGを初めて体験できてよかったです。トイレの場所を決めるのに苦労した。
- HUGグループでいろいろと話しあいができるのがよかったです。
- HUG訓練のやり方が参考になった
- ある程度経験のある人とHUGができる情報が収穫できた。
- いつ起ころかわからない災害を身近に考える良い機会になりました。
- 事前に考えることがいかに重要かがよく理解できました
- 堅苦しくなく、聴きやすい内容だった
- 実際、被災地に行った方の現場の声が聞けて今後の業務に非常に参考になりました。特に栄養士さんのお話のところが印象に残っています。
- 実際にHUGでシチュエーションごとに考えて初めて気づいたことが多かった
- 実際にシーンを想定して運営を考えるHUGゲームがためになつた。いろいろと考えがよんでいないことがわかつた。
- 尾島先生の講義にヒントをいただいた
- 想定していなかつたことがいくつかあり、備えていく上でのヒントとなつた。
- 時間にもう少し余裕がほしかつた。せっかくの講師の先生のお話が駆け足でした。
- 様々な立場の人でHUGをおこない、それぞれの立場で感じること、思うことを発言で

きているため、とても有意義な時間だと思います。

- ・ 災害支援ナースとして、保健師と協働し避難所運営を担うことになる。様々な地域のニーズを知ることができた。
- ・ 行政だけで防災を考えるのではなく、様々な方々の考え方を取り入れることが大切だと感じた。
- ・ 行政の立場にして、避難所運営につきつかりになれないと考えられるため、自助、共助の力を充実させることが重要である旨の内容であった。
- ・ 被災地での避難所の運営支援を行政と一緒にやっていますが、「体重計」や「ドアノブの消毒」など新たな発見がありました、HUGでも新たな課題が見つかりました。
- ・ 身近なテーマに対して知識を深めることができた。
- ・ 避難所の実態、時系列での対応状況がよく理解できた。
- ・ 避難所運営の手法などについて、周知することが非常に課題だと感じており、このような機会は避難所運営の周知について実践的な点を含めてできることから、非常に有意義であると思います。
- ・ 防災について普段、強く意識する機会が少ないので、良い経験になりました。

<今後の活動への要望>

- ・ HUGを学ぶことができてよかったです。浜松を想定した防災訓練（机上）を知りたい。
- ・ まだまだ知らないことが多いので、講座や大学でも学びたいと思います。学習の機会の情報を教えてほしいです。
- ・ 大学においての学生の関わり方（災害時）
- ・ 災害が起きる前から災害発生後までの災害ボランティアの役割について知りたいです。
- ・ 職場や学校や地域単位で簡単でも頻度の高い訓練を。HUGゲームは大変役に立つと思った。
- ・ 自主防災隊（地域住民）の取り組み事例などの紹介
- ・ 避難所運営については、内容が多岐にわたるため、知っておくと良い知識等が多い。健康管理、食料の準備等、一つ一つの分野にも特化した講義があれば良いと思う。
- ・ 避難所生活な過酷な状況になる。そもそも避難所に来なくても良い事前にできる準備についての話があれば良いと思う。
- ・ 防災、減災に関しては何度行っても無駄にはならないと思うので、できる限りこのような機会をつくってほしい
- ・ 防災について一般の方で関心がない人、自分ごとと捉えない人が多くいます。今回のような機会はこれを解消するきっかけになることだと思います。企画するのは大変ですが、今後もこのような機会が増えることを期待しています。



3. 静岡建築茶会 2017

～Shizuoka Architectural Tea Break 2017

この講座の内容は別途冊子にまとめられています。

下記 URL で電子版の冊子の内容が確認できます。

<http://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/report2017>

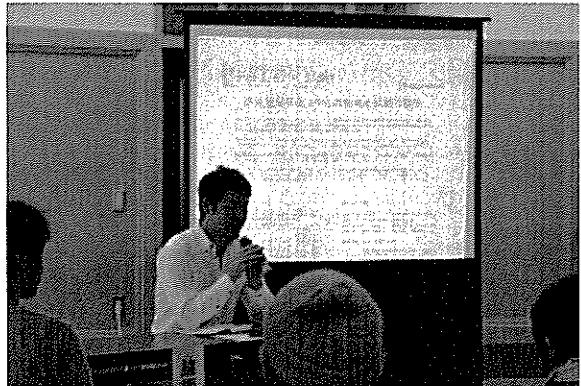


講座の概要

- 1 大学連携講座の名称:防災建築街区と中心市街地の持続可能性 第1回@浜松
- 2 主担当大学及び所属:静岡理工科大学 理工学部 建築学科 脇坂圭一
- 3 連携先大学及び所属:静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 天内大樹
・講師、常葉大学 造形学部 造形学科 土屋 和男・教授
- 4 開催日時:10月14日(土) 13時30分~17時00分
- 5 開催場所:浜松・鴨江アートセンター
- 6 参加者数: 32人(一般 24人、大学生 8人)
- 7 事業の概要と成果(講師、要旨を含む):前後半に分け、前半は脇坂より「防災建築街区とは何か」として概説を行った後、登壇者による講演、後半はモダレーターを含めたディスカッションを行った。
講演者および題目は、海道清信氏(名城大学都市情報学部都市情報学科 教授) | 防災街区の再発見、鈴木一郎太氏((株)大と小とレフ 取締役) | 建物の活用と、生活者の活動(地域プロジェクト)、佐々木豊氏(浜松市役所 都市整備部 市街地整備課) | 浜松市の取り組みについて、であった。モダレーターは、脇坂圭一(静岡理工科大学)、天内大樹(静岡文化芸術大学)、土屋和男(常葉大学)が務めた。
脇坂からは、防災建築街区造成法と都市建築関連法の関係、静岡県内に残る防災建築街区の立地状況、数量、熱海、富士、清水、静岡、浜松の防災建築街区の現状、沼津、磐田ほかの防火建築帯の現状、タワー型再開発による課題、について発表した。
海道教授からは、愛知・犬山、富山・氷見の防災建築街区での取り組み、大火と防災建築街区の歴史的関係、現状と課題、可能性について、鈴木一郎太氏からは、「地域プロジェクト」をキーワードに、防災ビルの建て替え後の建物における事業とまちとの関わり、「生活長者」としての社会との関わりについて、佐々木氏からは、浜松市内の再開発の変遷、中心部の歩行者の減少、老朽化の進行、アンケートによるオーナーの意向、空き屋敷の増加、都市再生促進条例による法的支援とリノベーションまちづくりによる官民分担、個々の建物に応じた多様な整備手法の必要性について、講演を頂いた。
ディスカッションでは、リノベーションの採算性として、初期投資を抑えつつ、価値向上による行政としての固定資産税の増収について、短期的な儲けだけでは無く地域プロジェクトとして長期的に地域に関わることの意味について、産業支援だけでは無く起業家支援の視点を持ったまちづくり行政の必要性について、議論した。また、活発な質疑が上がり、街なかに人が集まる仕掛けをつくるオーナーの重要性、文化財としての防災建築街区の可能性、そのオーダーとしての50年、100年という時間、富士市における富士山への景観の意味とまちの骨格の関係、鳥取市における市民のスタンス、などに話が展開し、中心市街地の活性化について、掘り下げられていった。

※詳細資料: 広報チラシ兼当日プログラム、講座写真データ、記録集

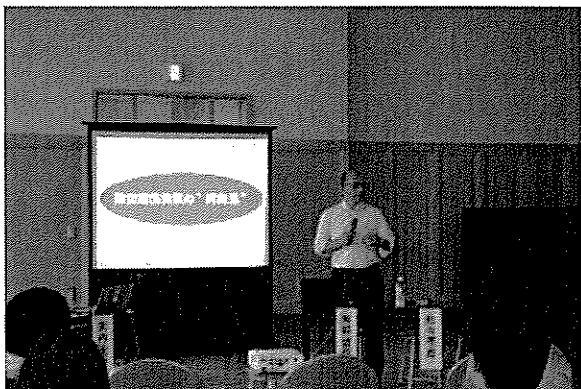
講座写真データ 第1回@浜松



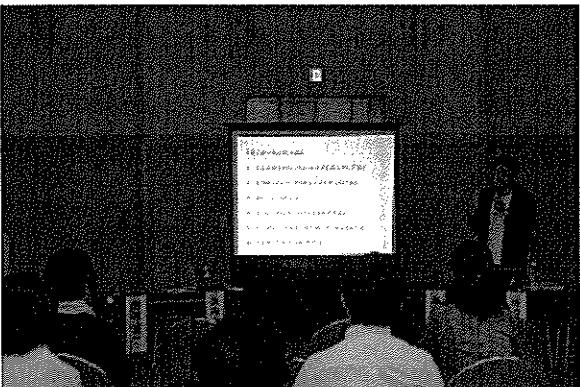
主旨説明をする天内大樹



防災ビルの説明をする脇坂圭一



講演する海道教授



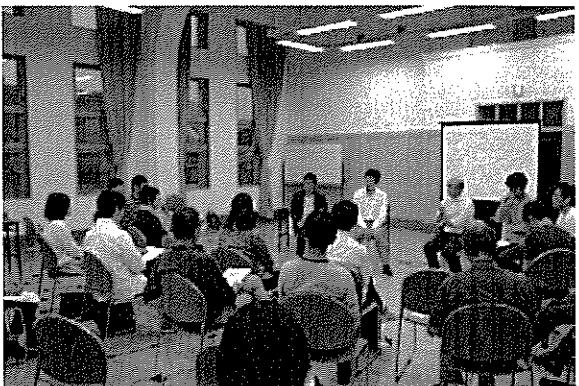
講演する鈴木一朗太氏



講演する佐々木豊氏



ディスカッション風景



ディスカッション風景

静岡建築茶会 2017

Hamamatsu

縮退する社会で持続可能な都市とは?

「静岡建築茶会 2016」は「建築家」に焦点を当てましたが、
「静岡建築茶会 2017」は「都市」に焦点を当てます。

県内各市における現代的な課題として一部を挙げるならば、①脆弱な公共交通と都市の郊外化+都心部の空洞化と商店街のシャッター街化、②限界集落の消滅可能性と環境の保全、③東海道沿いゆえの開発で失った多くの歴史遺産、④全国的に高水準の空き屋問題、⑤市街地に戦後多く建設された建築物の老朽化などがあります。

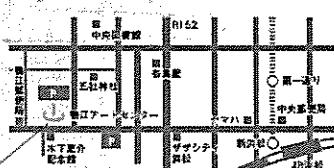
複雑に絡み合ったこれらの問題に、簡単に处方箋は見いだせませんが、個々の専門領域に閉じこもらず、産官学の関係者と一般の来場者も含めたラウンドテーブルを開催することで、問題のメカニズムを共有し、方法論を見いだしたいと思います。

静岡県は東西に広い地理的要因、藩政期以来の歴史的要因などから、問題意識を県民として共有するのが難しいとも言われます。東海道沿いだから降ってきたヒト・カネ・モノにはもう頼れないとおもわれます。

今回トピックに据えたのは「防災建築街区」、昭和 30 年代、延焼防止を目的に全国の市街地に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。竣工から 50 年経ち、商業空間の上部に集合住宅やホテルを積層させた「下駄履き」に再開発するか、中低層建物を活かして現代版の職住近接の街並みへアップデートするか——皆さんとともに「自分ごと」として考えてていきます。

10/14 SAT 13:30-

LECTURER 鈴木一郎太 ((株)大と小とレフ取締役) / 佐々木 盛 (浜松市役所 都市整備部) / 海道清信 (名城大学都市情報学部都市情報学科 教授)
MODERATOR 横坂圭一 / 天内大樹 / 土屋和男
VENUE 浜松市 蜂江アートセンター 3階 301室



LECTURER



LECTURER



鈴木一郎太

(株)大と小とレフ 取締役 / 浜松市生まれ。イギリスでアーティスト活動後、NPO 法人クリエイティブサポートレッグにて、文化事業を担当。2013年にパートナーとソフトを機断して独立。会社を建築家の大東翼とともに設立。コミュニティベース企画運営、地域プロジェクトの研究、展示デザイン、演劇作品制作、文化事業企画など、2016年から静岡県文化プログラムコーディネーター。

LECTURER



懇親会: 黒板とキッチン



海道 清信

名城大学都市情報学部 都市情報学科 教授 / 金沢市生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了後、地域振興整備公団、工学博士、一级建築士。1995年より名城大学助教授、2002年より現職。都市計画(都市デザイン、都市再生)、持続可能な都市形態、人口減少時代の都市や地域のあり方、住民参加のまちづくりなどを調査研究。

タイムテーブル

13:30 挨拶・主旨説明	14:55 鈴木一郎太さん講演
13:35 県内の防災建築街区紹介	15:20 お茶会
13:50 海道清信さん講演	15:40 ディスカッション+Q&A
14:30 佐々木盛さん講演	16:30 終了、懇親会へ

参加お申し込み・お問い合わせ



定員は各回50名(先着順・無料)となっております。
3日前までに下記メールアドレスへお申し込みください。
その際、お名前・ご住所・ご所属・人数・懇親会(実費)への
参加の有無をお知らせください。

teabreak.shizuoka@gmail.com

MODERATOR / ORGANIZER



横坂圭一 1971年北海道生まれ。東北大工学部建築学科卒業。建築設計事務所勤務。オーフス建築大学留学(デンマーク政府奨学生)。JDS architects、東北大工学院博士課程修了。横坂圭一アーキテクツ設立(ヒュッゲ・デザイン・ラボに改組)。2011-16年名古屋大学建築設計面進歩准教授。2016年静岡理工科大学建築学科設備準備室教授。



天内大樹 1980年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。同大学大学院人文社会系研究科博士課程退学。博士(文學)、美学藝術論/建築思想史。2008年日本美術振興会特別研究員、2011年東京大学教養部准教授、2012年東京理科大学P.D.研究員、2014年静岡文化藝術大学デザイン学部空間造形学科(現・デザイン学科)講師。



土屋和男 1968年東京生まれ。工学院大学建築学科卒業。芝浦工業大学大学院建設工学専攻、同地域環境システム専攻修了。博士(工学)。一级建築士、2002年より常葉学園大学造形学部講師、准教授。現在、常葉大学造形学部教授。専門は近代日本建築史。

PROJECT MEMBERS

杉山雅教(静岡文化藝術大学 デザイン学科3年) / 平井彩希(静岡文化藝術大学 デザイン学科3年) / 山下由莉恵(静岡文化藝術大学 デザイン学科3年) / 安江朱音(静岡文化藝術大学 デザイン学科2年)

公益社団法人ふじらに地域・大学コンソーシアム 平成29年度 大学連携講座

【主催】静岡理工科大学/静岡文化藝術大学(連携)/常葉大学(連携)/静岡建築茶会
【後援】浜松市/袋井市/静岡市/静岡県/日本建築学会/資源エネルギー庁/日本建築士会/日本建築教育協会/東海支部/静岡北緯会/静岡県建築士会/静岡県建築士会若手会員会/RPB(Regional Brand+Pride、東日本地域向上研究会)/総合資格学院/自建学院/佐・承認等を含む

【協力】百吉里ファーム

※「静岡建築茶会」は浜松市文化藝術創造団体として認定されています。

<https://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/>

講座の概要

- 1 大学連携講座の名称:防災建築街区と中心市街地の持続可能性 第2回@富士
- 2 主担当大学及び所属:静岡理工科大学 理工学部 建築学科 脇坂圭一
- 3 連携先大学及び所属:静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 天内大樹・講師、常葉大学 造形学部 造形学科 土屋 和男・教授
- 4 開催日時:12月9日(土) 13時00分~16時30分
- 5 開催場所:富士・富士市交流センター(富士市交流プラザ内)
- 6 参加者数: 27人(一般 26人、大学生 1人)
- 7 事業の概要と成果(講師、要旨を含む):構成は第1回と同様に、前後半に分けて実施した。前半はレクチャー、後半はディスカッションである。講演者および題目は、遠藤薰氏(東京電機大学 未来科学部 建築学科 特任教授) | 再々開発と防災建築街区を考える、佐野莊一氏(富士山まちづくり株式会社 代表取締役)・勝亦優佑氏(勝亦丸山建築計画 代表取締役) | 複数の土地の建築資源を接続する、今川俊一氏(静岡市役所 企画課) | 街の“廊下”でありつづけるための建築帯、伊藤光造氏(NPO 法人くらしまち継承機構 理事長) | 防災建築帯、防災建築街区の共同ビルにおけるリノベーションと建築基準法適用の問題、であった。モデレーターは、脇坂圭一(静岡理工科大学)、天内大樹(静岡文化芸術大学)、土屋和男(常葉大学)が務めた。
前半、レクチャーに先立ち、脇坂より第1回以降の調査成果も含めて「防災建築街区の紹介」を行った。遠藤薰教授からは、小樽市と枚方市の再々開発の動向、容積の質を反映した土地の高度利用、メインストリートを形成・運営してきた防災建築街区の容積の質、スケールを再現する市街地再開発事業の提案について、佐野莊一氏・佐野莊一氏からは、富士・吉原地区で取り組んだイベントやコンバージョン事例の紹介、不動産データベースとして取り組んだ調査内容、建築家であり事業主としてビジネスに取り組む方法論について、今川俊一氏からは、静岡市呉服町に残るオリジナルの店舗の減少と全国資本テナントの増加、オーナーの意識、通行量の変遷と場所の関係、複数の建築モデルとその特徴、低層型の可能性について、伊藤光造氏からは、既存不適格と基準法3条1項3号の可能性、文化財保護法182号2項と基準法の適用除外、静岡県の基準法3条1項3号適合事例について、講演を頂いた。
ディスカッションでは、ゼネコンの本音、実際の事業性との齟齬、街の廊下としての静岡市・呉服町の可能性、ローコストにすることによる設計量低減のジレンマ、オーナーの知識の少なさ、制度設計とその結果としての空間の規程、「吉原スタイル」の可能性、地方におけるタワー型のリスクとそれを選択する行政の責任、文化財としての防災建築街区について、議論した。また、質疑として、地元出身の専門家から商店街が疲弊していることへの悲しみと行政の誘導の役割、地元民の愛着の少なさ、といった話題からさらに議論が展開した。

※詳細資料: 広報チラシ兼当日プログラム、講座写真データ、記録集

講座写真データ 第2回@富士



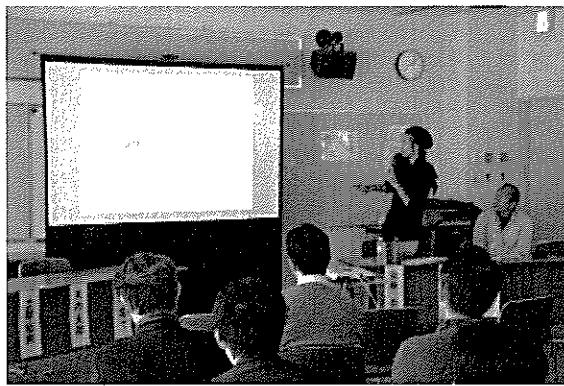
開会挨拶をする土屋和男



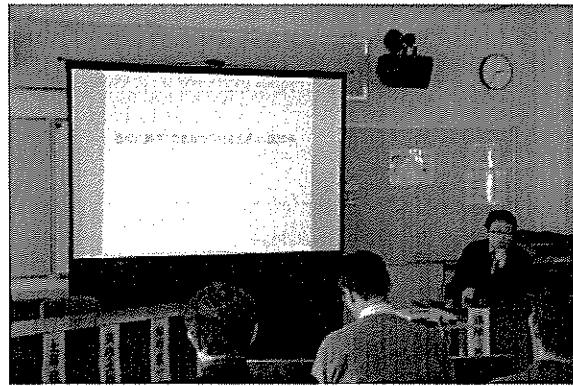
防災ビルの紹介をする脇坂圭一



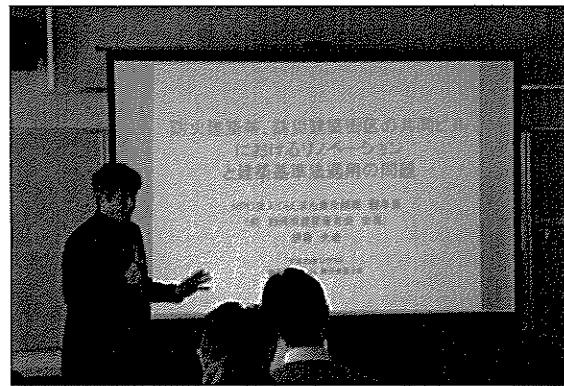
講演する遠藤薰教授



講演する佐野莊一氏・勝亦優佑氏



講演する今川俊一氏



講演する伊藤光造氏



ディスカッション風景

静岡建築茶会 2017

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 平成29年度大学連携講座

Fuji

防災建築街区と中心市街地の持続可能性

県内各市における現代的な課題として一部を挙げるならば、①脆弱な公共交通と都市の郊外化+都心部の空洞化と商店街のシャッター街化、②限界集落の消滅可能性と環境の保全、③東海道沿いゆえの開発で滅失した多くの歴史遺産、④全国的に高水準の空き屋問題、⑤市街地に残る多く建設された建築物の老朽化などがあります。

複雑に絡み合ったこれらの問題に、簡単に处方箋は見いだせませんが、個々の専門領域に閉じこもらず、産官学の関係者と一般の来場者も含めたラウンドテーブルを開催することで、問題のメカニズムを共有し、方法論を見いだしたいと思います。

静岡県は東西に広い地理的要因、藩政期由來の歴史的要因などから、問題意識を県民として共有するのが難しいとも言われます。東海道沿いだから残ってきたヒト・カネ・モノにはもう頼れないとかもしれません。

今回トピックに掲げたのは「防災建築街区」、昭和30年代、延焼防止を目的に全国の市街地に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。竣工から50年経ち、商業空間の上部に集合住宅やホテルを積層させた「下駄履き」に再開発するか、中低層建物を活かして現代版の職住近接の街並みへアップデートするか——皆さんとともに「自分ごと」として考えてていきます。

12/9 / SAT 13:00

LECTURER

遠藤薰（東京電気大学）/ 佐野莊一（富士山まちづくり会社）/ 勝亦優祐（勝亦丸山建築計画）/ 今川俊一（静岡市）/ 伊藤光造（NPO法人しまむら維承機構）

MODERATOR

盛坂圭一

天内大樹

土屋和男

VENUE

富士市交流センター
(富士市交流プラザ内)
富士市富士町20番1号



LECTURER

LECTURER

遠藤 薫

東京電機大学未来科学部建築学科特任教授／岐阜県生まれ。東京大学大学院都市工学専攻終了後、住宅・都市整備公団（現UR・都市機構）。博士（工学）。2007年より東京大学大学院都市持続再生学コース（通称東大まちづくり大学院）特任教授。2014年より現職。都市計画（都市再開発、公民連携、都市再生）について調査・研究を行う。

LECTURER

LECTURER

勝亦 優祐

勝亦丸山建築計画 代表取締役／1987年富士市生。2012年工学院大学院工学研究科建築学専攻木下廣子研究室修了。2012年より自建設計・プロジェクトとしても活動。2013年帰郷。2017年株式会社勝亦丸山建築計画設立。静岡県富士市、東京都北区を拠点に建築、インテリア、プロダクトのデザイン、都市リサーチ、地域資源を活かした事業投資等を行う。

LECTURER

伊藤 光造

NPO法人しまむら維承機構理事長／1948年静岡県生。早稲田大学大学院建設工学科修了。篠跡まちづくり研究所前所長。地域づくりプランナー、プロジェクトマネージャー、NPOとして歴史的建造物・街並の保存・活用、被災地支援など。前静岡県建築審査会会長、静岡県景観懇話会委員、静岡県富士山地域景観協議会アドバイザー、富士市景観審議会副会長他。

LECTURER

今川 俊一

静岡市役所企画課／千葉県出身。2001年東京大学大学院都市工学専攻修士課程修了。静岡市環境研究所に5年勤務。2006年静岡市役所、都市計画課、企画課で静岡、清水の中心市街地まちづくり（七間町映画館街跡地周辺再生、清水港ウォーターフロント開発等）に従事。

タイムテーブル

13:00 挨拶主旨説明	14:45 お茶会
13:05 防災建築街区の紹介	14:55 伊藤光造さん話題提供
13:15 遠藤薰さん講演	15:15 ディスカッション
13:45 佐野莊一さん・ 勝亦優祐さん講演	16:25 まとめ
14:15 今川俊一さん講演	16:30 終了、懇親会へ

参加お申し込み・お問い合わせ

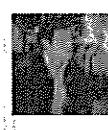
各回定員
50名

定員は各回50名（先着順・無料）となっております。
3日前までに下記メールアドレスへお申し込みください。
その際、お名前・ご住所・ご所属・人数・懇親会（実費）への
参加の有無をお知らせください。
teabreak.shizuoka@gmail.com

MODERATOR / ORGANIZER



盛坂圭一 1971年北海道生まれ。東北大工工芸部建築学科卒業。建築設計事務所勤務。オーフス建築大学留学（デンマーク政府奨学生）。JDS architectis 東北大大学院博士課程修了。盛坂圭一アーキテクツ設立（ヒュッゲ、デザイン・ラボに改組）。2011-15年名古屋大学建築設計推進室准教授。2016年静岡理工科大学教授。



天内大樹 1980年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科博士課程退学。博士（文學）、美学芸術学／建築思想史。2008年日本藝術振興会特別研究员、2011年東京大学教務補佐員、2012年東京理科大学P.D.研究员、2014年静岡文化芸術大学デザイン学部空間造形学科（現・デザイン学科）講師。



土屋和男 1968年東京生。工学院大学建築学科卒業。芝浦工業大学大学院建設工学専攻、同地域環境システム専攻修了。博士（工学）。一般建築士、2002年より常葉大学造形学部講師、准教授。現在、常葉大学造形学部教授。専門は近代日本建築史。

PROJECT MEMBERS

杉山雅哉（静岡文化芸術大学 デザイン学科3年）/ 平井彩希（静岡文化芸術大学 デザイン学科3年）/ 山下由利恵（静岡文化芸術大学 デザイン学科3年）/ 安江朱音（静岡文化芸術大学 デザイン学科2年）

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 平成29年度 大学連携講座

[主催]静岡理工科大学・静岡文化芸術大学(連携)・常葉大学(連携)・静岡建築茶会
[参援]浜松市・袋井市・静岡市・富士市・磐田市・沼津市・日本建築学会東海支部・静岡建築士会・静岡県建築士事務所協会・RBF(Regional Brand+Pride)、東日本地域能力向上研究会・総合资格学院・日建学院 *依・承認待ちをさむ
[協力]古里ガーデン

*「静岡建築茶会」は浜松市文化芸術創造団体として認定されています。

<https://www.sist.ac.jp/architecture/teaparty/>

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠 3-6-1

静岡県総合研修所もくせい会館

電話 054-249-1818

E-mail: mail@fujinokuni-consortium.or.jp

